

きぶのたて

N0.65 月刊

昭和廿八年十一月一日発行 (非売品)
 岡山県津郡吉備町末町一五五番地 電話四三三番
 吉備 親老湯 会

○ 難波八郎系譜 (梅川領主戸川氏家臣)
 本姓 庄田氏

難波孝源 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

母八高 清正(即成八郎) 室曆四甲戌年五月改別家
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

○ 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

○ 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

○ 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

○ 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

○ 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)
 室方(李家)茂七(輝人物)難波讓太郎(参照)

○ 森下清沼系譜 (戸川氏家臣)

森下茂吉 永三(一即)母(前)三國(慶應)二年十月八日生、明治四年八月一日、母
 八重(養)の妾と共に中尾家(同居)で成長、後、梅川領に帰る。難波家(梅川)
 嫡子(女)譲方(本傳)正(即)讓太郎(家臣)一應(徳寺)八(敬道)宮(白木)一(戸川)
 家臣(三人)確認。世(家)一切並(扶)助(全)六(指)得(宗)世(不)成(足)守(同)居
 中(護)下(候)。

妻 満寿 光 明治二七年七月十四日生
 實は梅田佐吉の次男
 清治 嘉永三年五月十九日生
 明治十二年七月九日北(三十才)
 妻喜代 足守村上足守白田村安。

妻 満寿 光 明治二七年七月十四日生
 實は梅田佐吉の次男
 清治 嘉永三年五月十九日生
 明治十二年七月九日北(三十才)
 妻喜代 足守村上足守白田村安。

○ 松田元吉系譜 (戸川氏家臣)

松田元吉の先祖は備前備津郡金川城主松田元成の一族にして、永禄十一年
 宇喜多氏に降(ぼ)さ(れ)此(れ)、落城の際松田藤右(工)門(左)なるもの(が)逃(れ)此(れ)備中(に)住
 し、後、宇喜多氏(に)從(属)した(り)宇喜多氏(も)亦、慶長五年の関ヶ原の役(に)
 没落し藤右(工)門(は)再(び)備中(へ)歸(り)永(く)浪(人)し(て)いた(り)徳川(國)府(に)住(す)る(に)
 川(氏)が(庭)頼(に)封(せ)ら(れ)た(り)ので(戸)川(氏)に(仕)官(し)子(孫)は(明)治(維)新(ま)で(続)いた(り)。

(庭瀬藩創始時代)川(氏)家(臣)者(皆)懐(に)恩(を)承(り)万(治)宮(宮)文(壇)に(仕)官(し)た(り)も(を)思(は)は(れ)る(に)因(り)山(市)橋(橋)町(に)住
 する(子)孫(の)誠(治)郎(は)先(祖)の(古)文(書)數(葉)保(存)し(て)いた(り)た(り)昭(和)廿(年)六(月)廿
 九(日)戰(災)の(た)め(に)位(牌)と(共)に(全)部(焼)失(し)僅(か)に(左)の(証)文(三)通(を)所(持)し(て)い(る)。

月牌証文
 為(之)譽(念)道(信)士 文政九年十二月廿三日 下生位
 毎月饗饌薦山郊也珍恒規追福增泥洹之樂永至龍華之春無廢絶之時矣

嘉永六年九月四日建立 麻布鳥居坂
 施主 戸川御屋敷内 松田元吉殿
 高野山 室性院

嘉永六年九月四日建立 麻布鳥居坂
 施主 戸川御屋敷内 松田元吉殿
 高野山 室性院

わう一通は妻のむかし

為津善栄昌信女 文化十二年十一月十三日

としくある。(二北は毎月山野を採った新鮮な食物を佛前に供えて、常に法要を怠らな
冥福を祈れば、よかれ清めやすうかに、此の恵みはいつまでも絶えることにはない。と、うりである。

この月牌証は(月ごめ供養料)元吉が江戸に勤番中の十八歳の時に、なく
なつた養祖父母に当る福治郎老婦の供養のために高野山内の塔中、空性
院に納めた証文である。福治郎は幕府の交代寄合役にあつた戸川達義に
仕へた江戸詰の役人である。(空性院は無量寿院と合併して、いま空性院という)。

△ 松田氏畧系

在兵工延清

宗玄(貞亨の境) | 善学院(宝永の境) | 修経院(享保の境) | 眞受院(明和の境) |
妙玄(貞亨の境) | 修善院(宝永の境) | 勤持院(享保の境) | 阿受院

威徳院(安永の境) | 了智院(寛政の境) | 孫治郎(寛政九年十二月廿三日死) | 小孫太(寛政の境)
浄心院

妻某 文化十二年十一月十三日死

元吉 實は山梨県上野小倉雜樂助の三男
享保七年十一月二日生 四十三才 享遠金百貳拾七兩三分拜銀

明治十一年九月一日死

路久 寛政六年十二月十日生
倉敷村藤原利吉に嫁す

妻津苗 弘化元年七月六日生 五十九才
明治五年四月一日死

孫大治 慶應元年五月七日生
明治八年六月十四日 玉島に北去

権川東町吉岡屋源五郎の養
子となり孫は神戸市垂水町
清水通り廿八番地に住す

○ 政子 明治七年十二月十五日生
独身、父と共に一時倉敷に
移り岡山市網浜橋七、八
番地に住す。

里守 慶應三年十一月八日生 八才
明治十一年五月廿七日死
誠治郎 明治七年五月一日生
妻元、下橋川山亀吉の女、後ち
離別し明治廿四年三月十四日死

△

松田家の墓地は大母田の矢部ヶ鼻といふ山中竹藪の存在に蒼蒼とした大
小合せ十八基の墓標がある。そのうち七基は蓮瓣形にして高さ九五種
下部の幅三〇種、上部の幅二〇種ある揃つた立派なものである。

一、南無妙法蓮華経 父 宗玄 靈位 母 妙玄 靈位 延宝七年八月二日

二、清岸院 宗玄 日近修 奉唱満願目三千部成就 貞享元年二月十四日

三、妙法 善学院 宗全 靈位 修善院 妙全 靈位

四、妙法 好行 靈 享保十四年正月廿五日 宝永六年九月二十日

五、歸本 修経院 法順 位 享保七年庚辰四月二十二日

六、勤持院 妙教 靈 元文三年七月三十日

七、妙法 孤山 道心 寛保二年戊辰四月廿日 (口は不明)

八、眞受院 体学 信士 明和七年庚辰二月十三日 松田在兵工延清

九、妙法 阿受院 妙体 信女 寛政四年壬子十月二十日

十、妙法 孝唱 御願目三千石部 法正院 常諱日義 信士 安永四年未歳八月廿六日

十一、妙法 威徳院 宣應 日忠 西 靈位 安永五年丙申天六月六日

十二、妙法 智道 童子 安永七年戊戌年十一月十六日

十三、了智院 宗覚 信士 寛政三年癸亥三月十四日

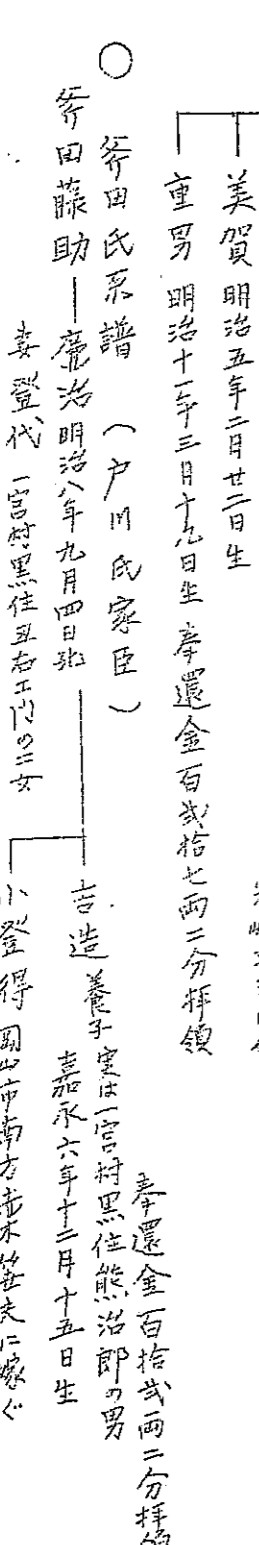
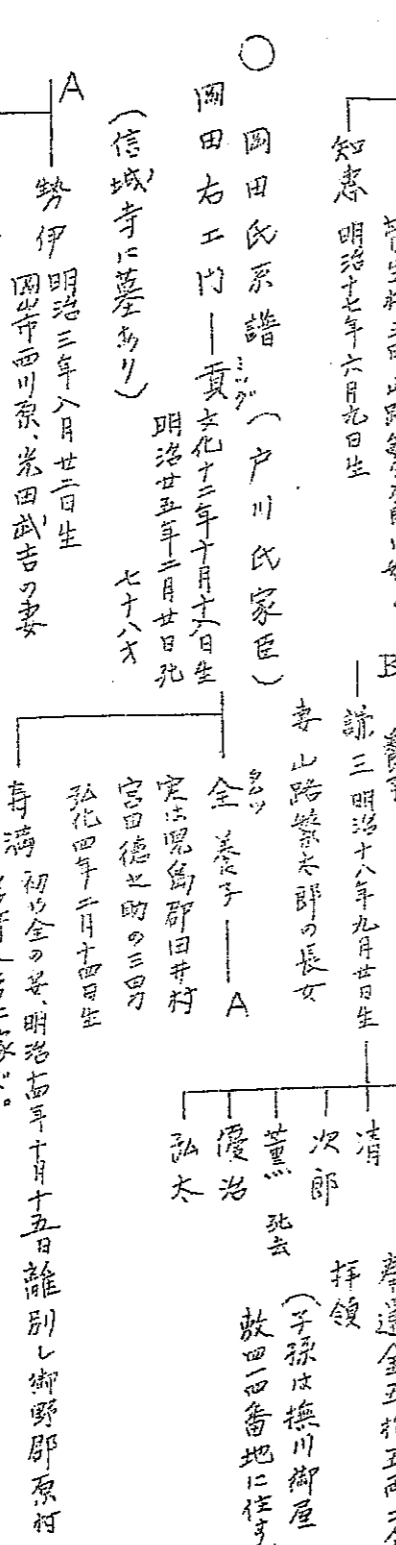
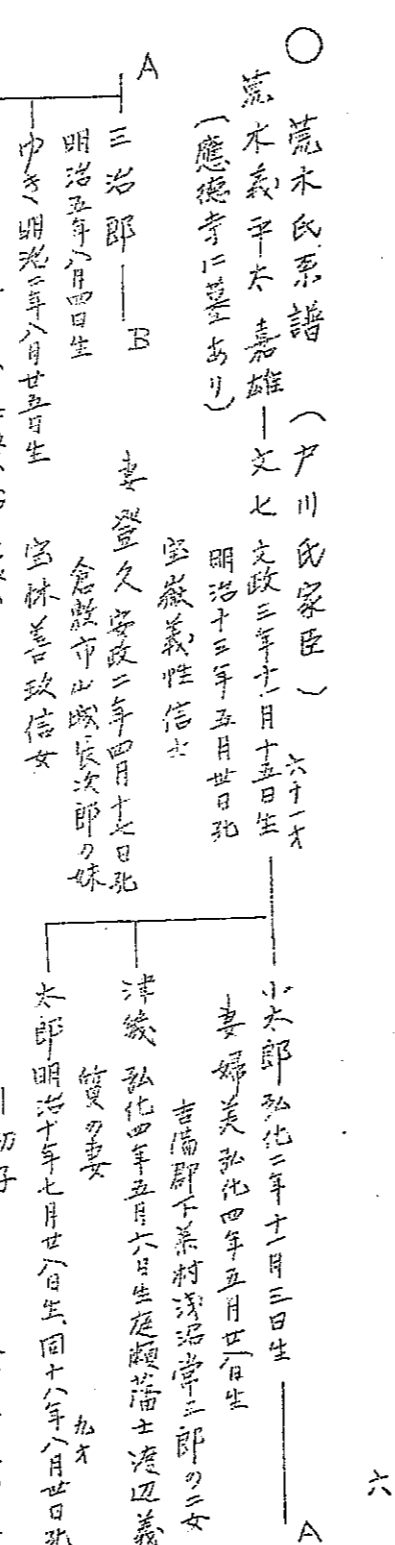
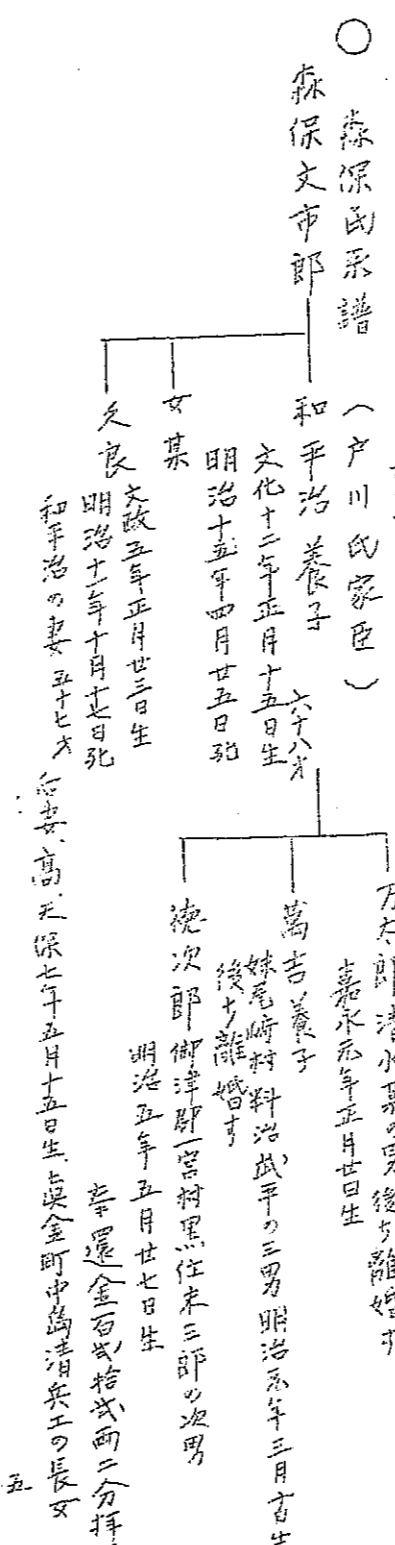
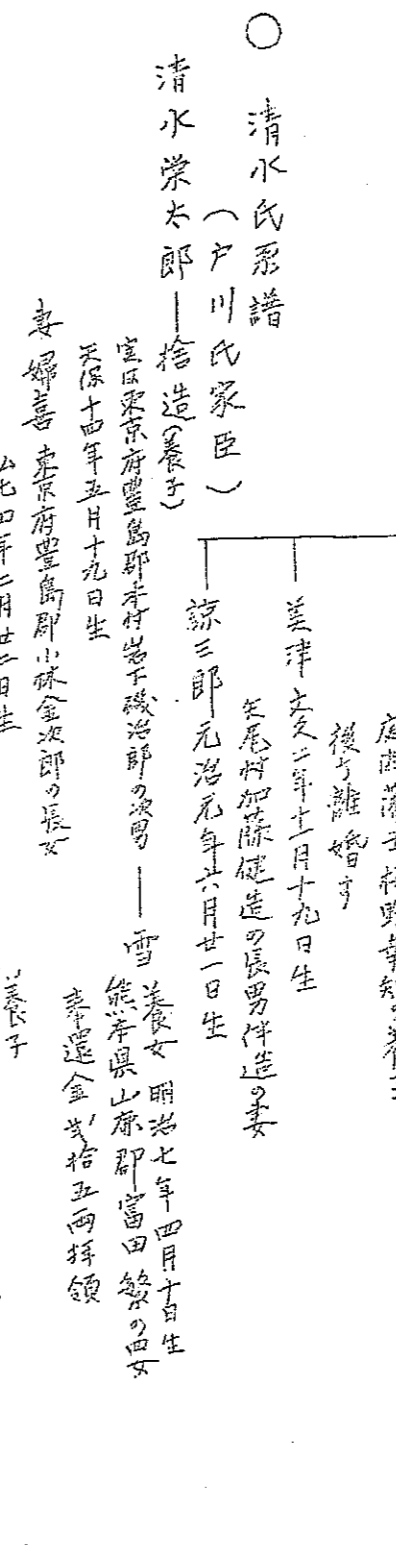
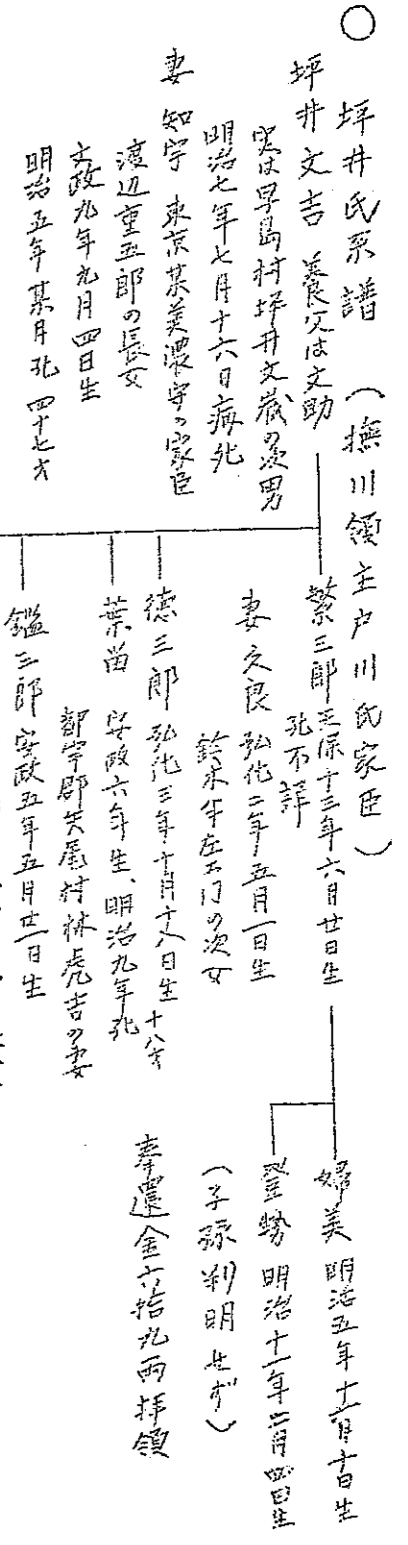
十四、蓮采院 妙薫 童女 明治十一年戊寅年五月廿七日 松田元吉娘 (里守)

十五、樹林院 妙遊 日信 靈位 明治五年四月一日卒 妻ツル

十六、空樹院 元吉 日遊 居士 明治十一年九月一日卒 松田元吉娘 里守

十七、蓮采院 妙薫 童女 明治十一年五月廿七日卒

墓石の配列年号を推察して寛政の境から明治の初期までの八十余年間の
の墓石が一つも見あたらな。思ふにその間江戸詰とせし東都に住居し
(月牌証文の戒名に相当する墓石もない)他國に埋葬したものと考へられる。



○ 丸川氏系譜 (戸川氏家臣) 丸川姓三家あり同族であるが、その系統は判らぬ。

× 丸川新右工門系
仙光院 丸川助兼信 文政三年七月二日北
得上院 文政五年七月廿四日北
夏山院 文久元年六月六日北
新右工門
妻老善院 嘉永四年七月一日北
妻令得院 姓不詳
文政十三年八月廿四日北
妻近善院 姓不詳
姓不詳
江戸に病北

隣大 江戸に病北 十六才
六十才
寿太郎 文正八年四月廿二日北
妻 貞昭和二年十月廿四日北
同出満士山下東 七十一才
六十才
芳太郎 文正八年五月十四日北
妻 某 明治廿六年二月十四日北
台妻 某 明治廿四年十月六日北 (三句)
丸川茂助兼信

△ 一、仙光院宗善 靈 文政三庚辰天七月上流二日 丸川茂助兼信
老善院妙年 嘉永四年庚申年七月朔日 (茂助の妻)

二、得上院道入信士 文政十一年七月廿四日、令得院妙住信女 文政十二年八月廿四日 俗名不詳
三、夏山院了性信士 文久元年六月六日、進善院妙勇信女 (進修) 俗名不詳
四、本覚院位降日燈居士 丸川隣大 十六才 (領主に從、江戸に封じ死す、死没年月不詳)
五、備照院妙相信女 明治二十六年四月十四日 (先妻) 自照院妙念信女 明治三十四年四月十六日三十才 (台妻) 善光院義徽信士 文正八年五月十四日 丸川芳太郎 六十才
六、本覚院宗善信士 文正八年四月廿八日 丸川持太郎 六十才 等覚院妙誠信女 昭和三年十月廿四日 妻七十才
七、信行院松舟日喜信士、温善院尊徳日政居士 昭和三年六月三日 丸川政一天 持二十五才 比島六才 比島駒北
信鳴院妙念日龜信女 (俗名不詳) 以上は位牌による。

× 丸川潤治系
丸川茂市 專吉 文政二年六月廿日生、後、雜管す 美兵 明治九年五月十七日生 十五才
室は大福村住野仙右工門の次男
明治十四年四月九日北
其 寺吉の妻は清之進の津秋
清之進 天保十一年七月六日生 萬延元年生 志無 明治十三年一月廿日生 姓不詳
同家臣石黒矢野の養子

× 丸川喜右工門系
丸川嘉四郎 文化四年六月十日北 宗艶 文政十三年八月廿三日北 喜右工門 明治四年十二月廿四日北
妻 不詳 唯淨院
務 嘉永三年二月廿日生 六十才
七在三年一月廿六日北 妻 不詳 唯淨院
妻 聖具 嘉永元年一月廿四日生 鶴太 明治六年十月三日生 カスアキ (東京に位す) A
庭瀬渡 迎雨孟の娘 六十才
明治四十二年十一月二日北 貞明 明治十一年九月十三日生 死不詳
登見 明治十五年三月廿日生 同年十二月十三日北 一才
三男 大 明治廿七年七月廿二日生 年還金百拾貳兩二分 揮領

△ 蓬所は始め應徳寺、後、信誠寺に移す。
一本是院宗法 文化四年六月十八日 丸川嘉四郎
二、宗艶 信士 文政十三庚八月廿三日 妙受信女 天保八丁酉年五月十二日 丸川氏
三、唯淨院 宗有 信士 明治四年庚申年十一月廿四日 丸川喜右工門、唯淨院妙淨信女 喜右工門妻 (姓不詳)
四、瑞芳院 琴彭 智音 信女 明治三十七年十二月二日 丸川 琴 二十一才 丸川徳(聖具) 六十才
五、修徳院 法深 日進 信士 文正三年一月廿六日 丸川 務 (六十六才) 進修院妙徳日榮信女 明治四十二年十一月二日
森上氏 (帯江領主 戸川氏家臣) 畧系不詳、墓標は大塚山にあり。

○ 親月院 智覚 照度 居士 明治八年八月廿四日
心誠院 軌空 妙範 大姉 明治十七年甲申年九月十四日
親月院 眞覚 照度 大姉 明治廿四年甲申年正月廿九日
旧戸川家 葦江 藩 森上 金平 六義 茂 男 同苗 保三 義友
妻 吉備郡 庭瀬 藩 保田 忠右 工門 娘 久 長女 持満 之 墓

○ 宮本氏系譜 (板倉氏家臣)

寛保三年八月廿日 口 軍記文政五年二月六日 安政四年五月十日 元明 文久三年六月十日
 宮本氏多仲 保富 元知 九十才 恒徳 直之助
 直記 浩 養子 不詳 明治九年二月廿五日 明治侍帳に御近習給人並取扱(高不明)宮本連
 連次郎 津歳 安政二年七月廿日生 不詳 次郎とある。不斐院に位牌と墓標がある。

宮本氏の先祖は京都の人にして、享保年間宮本在兵衛といふもの女、
 某が六代藩主板倉昌信の家女となり享保九年五月十六日嫡子豊助を産
 んだが、不幸にして同年九月十日庭瀬で夭折した。屍は不斐院内に葬つ
 た。法名を明德院幼化知光童子といふ。同十一年七月十日に男子を産
 りけた。これが七代藩主勝興である。かゝる關係上板倉氏に仕官した家
 筋である。

○ 稲生氏(のう)畧系 (板倉氏家臣)

稲生吉五郎 淺治郎 静岡景富士郡原田に住す 勝太郎 得寿院詮量日身
 夏月日義居士 明治十五年七月廿日生 回雲日法信士 明治十九年十月十日 居士 昭和七年十月廿
 七十六才 東京芝二軒板に葬る 妻とる 七十五才
 妻マサ四月妙了大姉 庭瀬に祀す 妻とる 長寿院妙量日照大姉
 文久元年七月七日 七十五才 昭和三十二年三月十八日 祀す
 后妻カツ秋月妙園信女 静岡景富士郡原田に居す 子二人あり

A 省吾 明治四年十月八日生

妻 初枝 大正七年三月廿五日 南(女) 昭和三年一月十八日生 明治侍帳に小頭組小頭格三兩三分吉五
 郎とある。明治初年の子息淺治郎と
 熊代氏畧系 (板倉氏家臣) 其に藩主に従ひ、江戸に立寄り、澤野世利と
 熊代嚴五郎 初次郎 文久二年八月十日 止まる。現在静岡景富士郡湖西町就島津
 妻 沢山山村岡某の娘 北不詳七十六才 に住す。

○ 松田氏畧系 (板倉氏家臣)

松田寛敏 安政四年十月廿日 老治 天保十三年四月廿日生 長(女) 明治十年七月
 觀山院自休信士 五十八才 手野村女保田銀蔵の長男 廿日生
 妻 原 明治九年九月廿日生 妻むめ 嘉永四年正月廿日生 四十八才 明治十
 四年八月六日生
 觀月院妙自信女 六十七才 明治侍帳に組三者(長高 同族松田ツツ
 同藩主 熊代喜四郎右内侍の女 不詳)徳藏とある。 の養女後を離別す
 墓石は大塚山に一基ある。 銀造 明治五年二月廿六日生 七
 不詳)徳藏とある。 土原金村に移り住す。

○ 江本無印八

一 孫 嘉永三年五月廿六日生 弘 明治九年七月十六日生 明治侍帳に
 北不詳 勲治 明治十二年七月廿日生 近習自無格
 妻 嘉永六年九月九日生 仁 明治十五年八月廿日生 高六石二人
 正通郡父代村士族熊田信之次女 修 明治十八年九月廿日生 扶持とある。
 住吉 明治廿五年六月六日生 春江 明治廿一年一月十七日生 大坂に移り
 住す。

岡山のスーパー (市役所前)
 大丸百貨
 岡山市大供十字路 電話 〇六三八
 五六〇四 五六一三

株式会社 野崎材木店
 郷土出身取締役社長 野崎秀雄
 岡山市下西川町八九 電話 〇八二七七 (代)